

教員免許状更新講習～学校教育における体験活動の効果的な進め方～

令和元年 10 月 19 日（土）～10 月 20 日（日） 1 泊 2 日

○目的

児童生徒の「生きる力」を育む上で重要な体験活動による教育活動をより一層充実するために、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。

○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他 計 53 名

○事業の内容

（1）「教育の現状と課題」（講義）

講師：静岡県教育委員会義務教育課指導監 小関 昌典 氏

教育をめぐる現状と課題，国・県の教育政策の動向，これからの教員に求められるものについて学んだ。「自分ごと（自分の事）として学ぶ子供の育成」「問題行動に対する組織としての『チーム学校』づくり」などを具体的な資料をもとに，現場経験の豊富な講師の先生ならではの提言やアドバイスの詰まった講義であった。

（2）「主体的・対話的で深い学びに向けて～参加型学習の指導法～」（講義・実習）

講師：国立中央青少年交流の家企画指導専門職 土屋 貴弘

児童生徒が自ら課題を見つけ，自ら学び考え，主体的に判断・行動し，問題を解決する資質や能力を育むための参加型学習について学んだ。また，アクティブラーニングの手法を盛り込んだ参加型学習の導入となるプログラムを体験することにより，今後の学級作りや授業改善のヒントを得た。

（3）「体験活動と安全教育」（講義・実習）

講師：岐阜女子大学文化創造学部教授 井上 透 氏

体験活動で起こり得るリスクについて実際のデータを通して学ぶことにより，リスクの仕組みを理解し，それらのデータや事例から教育現場におけるリスクマネジメント・リスクコントロールについての考えを深めた。

（4）『「キャンドルのつどい」の進行とレク指導』（実習）

講師：常葉大学非常勤講師 田井中 正志 氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルのつどい」の具体的な進め方と，あらゆる場面で使えるレクリエーションの内容や指導方法を学んだ。実際に参加者が体験することにより，自身の学校行事の中でどのように取り入れていくかを考える時間となった。



(5) 「体験活動の教育活動への活用」(講義)

講師：国立中央青少年交流の家主任企画指導専門職 大家 浩靖

教科等の単元、題材と施設の活動プログラムの対応についての紹介ということで、当施設で今年度実施されたイングリッシュウォークラリーや学校と地域の連携についての説明を行った。

(6) 「学校教育における体験活動」(講義)

講師：國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋 氏

体験活動の充実が求められている背景、新しい学習指導要領で重要とされている体験活動の内容とその教育的意義、言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また、異年齢集団による触れ合いや、学級が子供たち同士の関わりによって成長していく様子などが映像やスライドで紹介され、感動的なシーンに涙ぐむ受講者が多く見られた。また、教員としての初心を思い出すきっかけともなり、参加者自身がこれからの指導の在り方について励ましを頂いた講習であった。

(7) 「『防災教育』の充実を図る指導方法」(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家企画指導専門職

市川 大、土屋 貴弘

基本的な野外炊事の方法や、災害時に役立つ調理法の実習や紹介を行い、防災教育の充実を図る指導方法を学んだ。また、「目黒巻」や「クロスロード」等を通して、実際の災害現場をイメージすることにより防災コンピテンシーを高める指導法の紹介や実習を行った。



《受講生の感想から》

- 講習では、広く深い学びがたくさんありました。講師の方々それぞれの素晴らしい内容が良かったです。
- 今までの自分を振り返り、今後の自分をイメージできる内容でした。
- タイトなスケジュールの中にも、きちんと目的があり、有意義な2日間でした。
- 普段あまり交流のない小中高の先生方ともご縁をいただけたことを、とても嬉しく思いました。それぞれの現場で頑張っている先生方とお会いすることができ、今回の学びもふまえて、また明日から頑張るぞ！という思いです。
- 講習を重ねるたびに不安がなくなり、とても有意義な時間となりました。こんな研修だったら、また受けたいです。

《成果と課題》

- 素晴らしい講師の指導により、受講生から高い満足度を得ることができた。
- 講義と実習をバランスよく構成し、実践的な講習プログラムを数多く取り入れることによって、学校現場ですぐに取り組むことのできるプログラムとして紹介することができた。
- 事前アンケートの内容を講師の先生方が講義に反映してくださったため、自由記述アンケートにおいても講習に対する参加者の高評価につながった。
- 本年度、幼稚園の先生方の参加があった。申し込みの際に小中対象である旨は理解していただいているが、「新しく知ることがたくさんあった。」という反面、「もう少し幼児・乳児の事例も欲しかった。」という感想があった。